

# 令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・タブレットドリルやドリルパークに取り組んだり、プリントを中心とした東京ベーシックドリルや南六チャレンジプリント、計算ドリルに取り組んだりしたことで基礎的な計算力が高まっている。
- ・自分の考えを絵や図、言葉などを用いてノートに説明できる児童が増えた。
- ・デジタル教科書、スクールタクト、学習探検ナビなど、ICTを積極的に活用したことで、主体的に取り組む児童が増えた。
- ・具体物や半具体物を使った操作を取り入れたことで、意欲をもって問題解決に取り組むことができた。

### (2) 課題

- ・数直線や図を使って立式する児童は増えてきてはいるが、文章問題の意味を理解して、数直線や図に表すこと。
- ・文章問題で正しい演算決定を行うこと。□や文字を使って場面通りの式に表す力を身に付けることが必要である。
- ・図形や表、グラフの算数用語の定着。定期的に復習に取り組む必要がある。(算数用語、分度器のはかり方、読み方、コンパスの使い方、図形のかき方など)

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率(経年比較)

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四則演算の達成率は、目標値に近いものや上回っているものが多い。</li> <li>・図形や長さ・重さの達成率は、目標値を下回っているものが多い。</li> </ul>		
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算のきまりに関するものや割合の達成率は、目標値を上回っているものが多い。</li> <li>・図形や面積に関するものの達成率は、目標値を下回っているものが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域別では、「測定」以外は目標値を上回っている。</li> <li>・観点別では、全ての観点において目標値を上回っている。</li> </ul>	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの領域・観点で目標値を上回っている。</li> <li>・面積に関するものや、分数に関するもので目標値を下回っているものがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての領域・観点で目標値を上回っている。</li> <li>・「数と計算」の領域では、全国平均より約7ポイント上回っている。</li> <li>・「データの活用」のみ、区の平均を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての領域・観点で目標値・区の平均値を上回っている。</li> </ul>

### (2) 分析(観点別)

#### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算力はほぼ身に付いている。一方で、2桁×2桁のかけ算の正答率だけが低いことから、複雑な計算を苦手とする児童もいることが分かる。</li> <li>・大きい数、小数、分数の基礎的な知識が正しく身に付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・□を使った式に関する学習では、問題正しく読み取って解答できる児童が多く、思考力や文章を正しく捉えて判断する力が身に付いている。</li> <li>・図形の学習では、図の情報を正しく読み取って答えたり、作図をしたりするのを苦手とする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に学習に取り組み、基礎的な力が定着している。</li> <li>・活用する力に課題がある。</li> </ul>

## ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な計算力はほぼ身に付いている。</li> <li>小数を正しく理解できていない児童の割合が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフを正しく読み取ることのできる児童が多い。</li> <li>図形の学習では、作図をすることはできているが、図形を正しく読み取って答えることのできない児童の割合が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に学習に取り組んでいるが、学習したことを生活や学習に活用する力は弱い。</li> </ul>

## 3 授業改善のポイント（観点別）

### （1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の定着度を確実にするため、計算問題を反復させる。</li> <li>既習事項を教室に随時掲示し、解答までのプロセスをしっかりと見取ったり、確認したりして理解度を把握し、次時の授業につなげていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>概念形成や問題解決場面において具体物、半具体物を使った操作的活動を取り入れ、図やテープ図で表現させる活動を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に身近なものや事象を題材に児童自身が考えてみたいと思える問題や課題を設定する。</li> <li>実物を活用し、実際に動かしたり、体感したりする活動を取り入れる。</li> </ul>

### （2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>ドリルパークやタブレットドリルを活用し、習熟度に合わせた練習問題に取り組むことで学習の定着を図る。計算だけでなく、文章問題、グラフの読み取りや表し方など苦手な単元を中心に行う。</li> <li>数学的な活動を多く取り入れ、長さや重さなどについての量感を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数直線を使って立式をする習慣を身に付けさせる。</li> <li>自分の考えを絵や図と共に言葉で伝える力を付ける。また、考えを友達と交流することで、多面的な考えを身に付けさせる。</li> <li>図形の具体物を、実際に操作して考えることにより、図形を構成する要素を正しく捉えられるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童自身が考えてみたいと思える問題や課題を設定する。</li> <li>学習の見通しがもてる掲示の仕方を工夫する。</li> <li>ICT 機器などを積極的に活用する。</li> </ul>

### （3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットドリル、東京ベーシックドリル、計算ドリル、南六チャレンジプリントなどを繰り返して取り組み、苦手なところ（特に小数の計算とグラフや表の読み取り）の強化を図る。</li> <li>数量への関係を正しく捉えられるよう、図や数直線を日常的に使えるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「見当を付ける」「推測する」活動の時間を確保する。</li> <li>自分の考えを図や数直線を用いて分かりやすく表すことができるようにする。</li> <li>図形の具体物を、実際に操作して考えることにより、図形を構成する要素を正しく捉えられるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活に関連付けた課題を提示する。</li> <li>既習事項を意識させ、活用できるように掲示し、学習の見通しをもたせる。</li> <li>ICT 機器などを積極的に活用する。</li> </ul>